

# いわみざわの民話

## 第16回

### 彫り物師物語 ①

北村から岩見沢に移り住んだ彫り物師の海老江(えびえ)さんは、もうその頃は70歳にはなっていたようだ。

当時の元町、殊に畑1番地、いまの1条東あたりは、人家もまばらで、昼もさびしいところであったという。そんな具合だから、畑1番地の幾春別川よりには、岩見沢神社の発祥となる小さな神社があり、そこへ行く道が神社通りといわれていて、夜などはもちろん人っ子ひとり立つものがなかったところだぞうだ。

彫り物師の海老江さんは、この神社通りの中ほどに住んでいた。その近所であった曾川辰太郎少年は、よくこの海老江さんの家に遊びに行ったりと、言われている。辰太郎少年は18歳で

大工。ともに北村に住んでいたこともあって、年齢こそたいへんな違いだが、かなり心安くたずねたようだ。それに同じ手職である。辰太郎少年にはそんなことが興味をひいたのかも知れない。

海老江老人はいわば職人氣質というか、何もしないとときは朝から晩までごろごろしている。しかしいつたん気が向くとなると、ひと晩寝ずにでもやる。それを案ずる心優しいたつたひとりの娘がいた。それも貰いっ子で、老人にはほんとうの子どもがいなかった。連れの婆さんは北村時代に亡くなっていた。この娘は老人にとっては唯一の助け手であった。どこかさびしい影を漂わせていた老人だが、それでもこの娘がそのうつろを満たしてくれた。そんなこんなで、老人は子どもが好きであつたらしい。

いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。



辰太郎少年もこの老人からいろいろな話を聞いている。その中で当時榊戸集治監にいた名盗五寸釘虎吉の話はいちばん面白かった。虎吉が脱獄したときのことである。榊戸をぬけるには石狩川を渡らねばならぬ。思案のあげく虎吉は名案を思いついた。それがあの長い竹筒をくわえて渡ったという話である。

《続く》

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課

**ひとの動き** 平成23年5月31日現在

●住民基本台帳	人	口	総数 89,837 人(前月比 - 59)
			男 42,160 人(前月比 - 51)
			女 47,677 人(前月比 - 8)
	世帯数		42,459 世帯(前月比 - 12)

**岩見沢市役所**

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号  
 ☎ 0126-23-4111 ㊚ 0126-23-9977  
 ホームページ <http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>  
 ▶救急当番医ガイド ☎ 0126-23-5153  
 ▶消防テレホンガイド ☎ 0126-24-0119

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。